

仁井田川河川改修事業による取水堰早期完成にむけて



四万十町長 まえだ てつお
前田 哲生

四万十町は、四国山脈を背に、南は太平洋に面し、その中央を四万十川が東から西へと大きく蛇行しながら流れており、平成18年3月に3町村が合併して、淡路島より広い高知県下最大642km²の町として誕生しました。

本町は、清流「四万十川」の中流域にあって、東南部は土佐湾に面し、豊かな自然と山・川・海の幸にめぐまれた多彩な産業が営まれ、全国的に高い評価を受けている「仁井田米」をはじめ「四万十桜」「ショーガ」「椎茸」等多くの特産品を生み出しています。

今年2月、四万十川流域の優れた景観が、「重要文化的景観」に選定されたほか“日本の快水浴場百選”に選定された「興津海岸」をはじめ数多くの観光資源を有し、多くの観光客が訪れています。

四万十川支流の一つである、仁井田川の河川改修事業は、昭和57年より工事着手してきましたが、平成16年8月の台風10号により、仁井田地区において、床上浸水17棟、床下浸水27棟のほか、国道56号及び県道の冠水並びに農地11.7haの被害を被るとともに、同年10月の台風23号でも同様の浸水被害を受けました。

これを契機に、河川改修事業の早期完成の声が地元住民より挙がり、改修区間周辺の8地区の区長および各集落より選出された会員により、仁井田地区河川改修協議会が結成されました。

仁井田川氾濫・浸水の主な要因である平串堰(固定堰)を可動堰に改築するため、協議会において、水利組合や、関係集落との説明会を行い、地元の事業に対する理解と協力が得られたことによって、平串堰改築工事は、進められてきました。



可動堰の鋼製起伏ゲートには、「トルク軸式」「魚腹式」「横主桁式」のような3形式があり、構造・操作性・施工性・経済性を考慮した結果、魚腹式・軸ねじり方式を選定しています。

また、材質については、「ステンレス鋼材」を採用しています。

今後も、協議会及び地域住民との意思疎通を図りながら、平成22年8月完成を目標に、地域住民の安全と安心を確保するとともに、地域のさらなる発展に寄与することを目指して、事業を推進していきたいと考えています。

完成予想図

